

令和5年6月定例会一般質問

通告3

質問 断熱・気密に関する専門家資格の研修について

答弁 カーボンニュートラルを目指し職員の資質向上に努めます

18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。このたびは2点の質問を準備いたしました。

1点目でございます。断熱、気密に関する専門家資格の研修についてであります。我が町がゼロカーボンシティを宣言して3か月が経ちます。今日まで、中標津の建築について、特に断熱・気密について、中標津型住宅のあるべき姿について提言を繰り返してまいりました。



しかしながら私の問題提起が、町職員の皆さんにほとんど届いていないということに最近気がついてまいりました。どうも、建っている建物に対しての見え方が違っているようなのであります。この違いを乗り越えていかなければ、国連の地球環境部会が地球の地域に対して実効ある成果として求める、建築の熱損失を減少させる試みがスタート出来ないのではないかと考える次第です。

先の3月定例会の予算委員会では、町職員に対して業務に必要な資格を取得するに際して助成をすることが決まりましたが、それ以前、所属の厚生常任委員会の審査において喫緊の資格取得について、実際に実技を伴うような資格について、完全な資格取得に至らなくても、学科資格の取得だけでも民間の業者としっかり対峙できることを主張いたしました。それは実技を体験出来なくても、町職員が専門性を必要とする仕事ができるための仕組み作りの1つの考え方を披瀝したものでございます。

今般、ゼロカーボンシティの実を上げようと中標津町が挑戦を始めることは、北海道内においても最冷涼の都市にあって、断熱・気密が進むこととなり、我が町が地球温暖化防止に独自の成果を上げることとなるはずで、積極参加することは、具体的成果を見通せます。我が町はこの実現に当たって、最短の距離にあると考えるんですが、この視点さえも、どうも私の独りよがりになって吹き抜けていくもどかしさを感じます。

しかし、これを乗り越える手法として、表題に掲げるような資格取得に関するテキストを入手して講習を受け、町民による資格委員会を組織して、町独自の資格として認証し褒

賞も考慮するというのは実現不可能なことでしょうか。このテキストの入手と講習会の参加については、町長以下副町長、部長課長などの政策決定に関わる皆さんの積極参加を期待するものですが、テキストを手にとってぱらぱらと眺めるだけでも、目からうろこが落ちるような表記に驚かれることと思います。職員の皆さんの資格取得にチャレンジするきっかけになるだけでなく、町行政全体としても20人を超える専門的知識を有する人材を獲得できることになるとすれば、それは政策決定に至る合意形成に大きな力となるはずで、この人材集団は、町が今後、事を起こそうとするとき、今までとは違った視点での思考を提供することになるのだと期待するものです。定例的な彼らの会議開催は、地球温暖化に対抗する独自の町おこしにも積極的な貢献をするものと考えます。ぜひ、研究されることを期待して1問目の質問といたします。よろしく御答弁お願いいたします。

【答弁：町長】

松村議員御質問の断熱・気密に関する専門家資格の研修について御答弁申し上げます。

本町は本年3月17日に、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現を目指し、ゼロカーボンシティを宣言いたしました。また、根室管内1市4町全ての自治体が表明したことを踏まえ、根室振興局が中心となり、ゼロカーボン根室の推進に向けた共同メッセージを4月1日に発表し、根室管内の地域全体で行政関係機関、事業者、住民の皆様が一体となり取り組んでいこうと呼びかけたところであります。

ゼロカーボンに向けた取組の1つとして、建築物の断熱性の向上は北海道においても力を入れているところであり、そのための省エネ改修等への助成についての検討も進められているところであります。各種公共施設の計画や建設に関わる町職員は完成後の効率的・効果的な維持管理や、カーボンニュートラルの理念に基づく施設整備への意識を高めることも重要となり、断熱・気密に関する専門知識は有効と考えます。

今年度から実施する職員への資格取得費用助成制度は、人材確保の一環として、これまで自費としてきた自発的な資格取得の費用負担について、町民サービスの向上により最終的に町民に還元され、さらに職員の資質向上と自己啓発意欲を喚起させることから、公費負担として取り組むものであります。制度の運用に当たっては、公費を投入する以上、資格取得に当たり必要とする一定の知識やスキルを習得したことが客観的に証明される必要があると考えており、資格取得を希望する職員も、その証明を得るために努力をするものであります。そのため、議員御提案の完全な資格取得に至らなくても、町民による資格委員会を組織して、町独自資格として認証し報奨も考慮するということは、制度の趣旨には少なじまないものと考えております。

しかし、ゼロカーボンを推奨するため、関連する業務の担当職員はもちろん、それ以外の職員においても、ゼロカーボンシティ宣言を行った町の職員として、知識習得や資質向上に努めることは当然であり、建築物の断熱性能向上に関わる知識に限らず、カーボンニュートラルを目指すため、有用な情報について、今後、職員研修の開催等、積極的に職員に発信し、引き続き職員の資質向上に努めてまいりますので、御理解をお願いいたします。

質問 国道272号線 標津～中標津間の高規格化の早期実現に向けた要請について
答弁 関係自治体と連携を図り要請をしてまいります

18番 松村 康弘 議員

【質問：松村 康弘 議員】

18番、松村康弘でございます。2点目の質問でございます。

国道272号線、標津中標津間の高規格化の早期実現に向けた要請についてお尋ねいたします。釧路中標津道路は、釧路市と標津町を結ぶ延長約100キロの地域高規格道路、国道272号線の路線名で、1994年2月16日、計画路線に指定されました。もうすぐ30年が経とうとしています。近年、標津中標津間の通勤のための利用者は増大し、この区間の交通量は飛躍的に伸びているように思われます。

しかるに、現272号線は昔の標津川河岸段丘の地盤の良いところを選んで造られた道路を部分的に改良して今日に至っており、カーブの侵入に際して、速度を意図的に落とさせるガタンガタンと振動させて、ドライバーに減速を促す装置がついていたり、アイスバーン時には、相当な事故のリスクを伴う箇所がたくさんあります。緊急車両の満足な走行にも支障を与えるのではないかと指摘しても過言ではないと思います。

かつて高規格道路への予定路線陳情時には、標津釧路間は生命を守る道路であると働きかけられましたが、その必要性は今日増すことはあれ、減ることは全くありません。根室管内4町の連携はますます深まってきています。一次産業を支える物流の基盤として、はたまた観光客の増加など、地域産業の活性化に大きく貢献するこの高規格化を実現することは喫緊の地域課題であると考えます。

そこで提案いたしますが、国道272号線の標津中標津間と別海中標津間の高規格化を、4町で語らって強烈に陳情を開始すべきではないでしょうか。特に標津中標津間は優先順位が高い道路だと考えます。さらに、自転車専用レーンを創設することができれば、世界中のサイクリスト招致も可能になります。特に台湾は直行便のチャーターだって不可能ではありません。20キロの国道をサイクリングしていくと、眼前に国後島が広がる。それ

をさらに 20 キロ行くと上陸できるという距離を実感できるのです。

これらの陳情を積極的に展開し、地域の底力を強化すべき時ではないでしょうかと申し上げまして、2 点目の質問といたします。

【答弁：町長】

松村議員御質問の、国道 272 号線、標津中標津間の高規格化の早期実現に向けた要請について御答弁申し上げます。

釧路中標津道路は議員が言われますとおり、当地域の農業関連資材や生乳などの搬送・輸送ルート、また、観光ルートとして重要な役割を担うほか、救急救命時には釧路市の高次医療機関への患者搬送ルートとして、まさに生命を守る道路であり当地域にとって極めて重要な路線であります。現在私が会長を務める釧路中標津道路整備促進期成会では、平成 31 年 3 月に開通した上別保道路に続き、阿歴内、東阿歴内間及び北片無去、中茶安別間の調査促進と、風雪による通行止めや防災の緊急性から令和 3 年度に事業化されました上春別防雪の早期整備について、期成会会員の合意形成を図り国や北海道の関係機関への要請に取り組んでおります。

議員から御提案のありました標津中標津間と別海中標津間については、これらの現在要望している区間との比較の上、交通量をはじめ、事故や通行止めなどの潜在的な危険度や緊急性、さらには整備によって期待される効果などを具体的に示した上で優先順位を検討し、当期成会の中で合意形成を図る必要があります。

御提案の区間につきましても、広大な根室管内と釧路市を結び、羅臼町を含めた農林畜産業・水産業における生産物の輸送や観光振興を支える交通道路として整備が急がれることは十分認識しておりますし、先日、釧路開発建設部長が来庁した際に、中標津標津間について、地元要望もある旨お話をさせていただいたところであります。

いずれにいたしましても、引き続き計画的かつ着実に整備が進められるよう、関係自治体と連携を図り要請をしまいたしますので、御理解をお願いいたします。

【質問：松村 康弘 議員】

18 番、松村でございます。ただいまの町長の御答弁、開発建設部とのやりとりなど努力されていることは認めます。しかしながら、今、我が根室管内、先般、富士ドリームエアラインのチャーター便の中標津空港への便数が、国内の F D A の定期便の増大に合わせて、結果として減ってしまったようなそういう説明を受けました。しかし最近になって、釧路空港に F D A はチャーター便を降ろすことが新たに報道されています。

我が根室管内、インフラ整備とかインバウンドの整備において釧路市よりはガッツに欠けると申しませうか。過去に釧路空港へ台湾から直行便が1週間に1便飛んでおりました、そのとき冬場に降りて来られた台湾の観光客がカーブを曲がり切れなくて、センターラインを越えて事故を起こしたことがございます。そういう意味にあっても、釧路市がインフラ、道路の整備にかける情熱というのは非常に強いものがあると思います。

私たちの根室管内、それに比べると、とてもやはり思いが伝わりづらいのかと思うところがございます。標津中標津、別海中標津、これらの道路を早急に高規格道路化に向けての実現を働きかけることは、地域エゴであっても優先順位を上げていってもら、そういう強い姿勢が今、4町の中で求められて、根室市も入れて1市4町の中で求められている場面ではないかと思うのですが、ぜひそのような会議を開催するに当たっての地域としての問題提起を町長としてなさってみてはいかがでしょうかと再質問いたします。いかがでしょうか。

【答弁：町長】

観光に関する部分に関しましては、根室管内というのは大きな宿泊施設がない。これは例えばウトロでありますとか、阿寒から比べるとやはり見劣りするものでありまして、大きく呼べる施設があれば当然、そこに呼ぼうとする力も相当数働くものでございまして、それを何とか構築出来ないかと。大きな宿泊施設は無理にしても、観光の拠点をしっかりポイントづくりながらですね、お客様を何とか呼び込もうという施策をこの間ずっと続けておりますし、またそれに関してやはり、道路需要がいい道東における車の運転ですね、このまましっかりしていこうということで、道路要請は常日頃しております。

その中で、今、議員のおっしゃった部分とは路線がちょっと違うのでありますけれども、特に中春別と中標津の間の道路につきましては非常に狭くて、またよく曲がりくねっているということでありまして、必ず中標津町に入る団には10台ぐらいの列が出来ているというふうなものがあつたります。ここについて特に力強くですね、事あるごとに要請を続けておりますし、実際に車の交通量も非常に多いということでありまして。

そういった部分から見れば、私は逆に優先順位は、根室中標津道路の中春別中標津間ではないかというふうにはちょっと考えているところでありまして。議員のおっしゃった部分と相容れない部分もあつたりますけれども、道路要請につきましては今後ともしっかりと詰めていきたいというふうに思つております。以上です。